

報道関係者 各位

平成 23 年 9 月 22 日

【照会先】

大臣官房厚生科学課

課長 補佐 ^{こもと}古元 重和

研究事業推進専門官 ^{たんとう}丹藤 昌治

(代表電話) 03(5253)1111(内線 3807)

(直通電話) 03(3595)2171

「東日本大震災被災者の健康状態に関する調査研究」 「石巻市雄勝・牡鹿地区の被災者の健康状態」の調査結果公表

厚生労働省研究班では、「東日本大震災被災者の健康状態に関する調査研究」（研究代表者：林 謙治 国立保健医療科学院長）を本年 6 月から実施していますが、このほど宮城県石巻市の雄勝・牡鹿地区での調査結果がまとまりましたので、公表します。

本調査研究は、東日本大震災の被災者の健康管理と、今後の災害対策の立案への活用を目的に、被災者の健康状態について長期間の追跡調査を行うものです。今回の調査は本年 6 月～8 月に実施し、石巻市雄勝・牡鹿地区の被災者計 3,009 人のうち、血液検査、血圧測定などを受診し、アンケート調査に回答した 1,399 人を集計しました。

【主な調査結果のポイント】

1：「健康診断の結果」

健康診断（※）の結果、被災者の状態は、一般の人と比べて異常値の出現頻度に特段の特徴はなく、身体的な健康は保たれていた（資料 2）。

※：血圧、尿検査、血液検査（赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット、HbA1c、総コレステロール、肝機能、クレアチニン、尿素窒素）、聴診（心音）、身体測定、握力測定

2：「アンケート調査の結果」

- ・震災により、高血圧等の慢性疾患や歯科疾患等、中断した医療があった（資料 3 p3）。
- ・食事回数は保たれていたが、喫煙や飲酒については、震災後に摂取量の増えた人が若干名見られた。（資料 3 -p5, 6）。
- ・比較的睡眠時間は確保されていたが、睡眠障害が疑われる人の割合は 42.5%と、一般の人に比べて高くなっている。（資料 3 p9-12）
- ・一般の人に比べ、不安や抑うつ症状が認められる割合も高かった。震災の記憶についても、「思い出してしまう・夢に見る」、「思い出すと動揺する」とした人が 3 割を超えた。（資料 3 p17, 18）

なお、厚生労働省では、今後も調査を継続し、自治体、地元大学等と協力のもと、引き続き被災者の健康を管理するとともに、健康状態の悪化が懸念される被災者に必要な支援を行います。また、今回未実施の小児の分析や震災前の健診データとの比較、被害状況と健康状態の関連などについても分析を進める予定です。

【調査結果に関する照会先】

厚生労働科学研究「東日本大震災被災者の健康状態に関する研究」研究班

研究分担者（宮城県調査）：

東北大学大学院医学系研究科地域保健支援センター教授 辻 一郎（電話：022-717-8120）